



日本血管外科学会 禁煙宣言

2014年5月22日

喫煙は様々な疾患を引き起こす危険因子の中でも確実に取り除くことが可能なものである。動脈硬化を基盤として発症する脳血管障害、大動脈瘤、末梢血管疾患、冠動脈疾患などの心血管病では、喫煙が重要な独立した危険因子であり、禁煙はこれら重篤な疾患の発症率および死亡リスクを減少させることは科学的に証明されている。喫煙は喫煙者本人のみならず、たばこの煙を吸うことで非喫煙者の健康に悪影響をおよぼし、動脈硬化性心血管病を含めて種々の疾病を発症させることが多く報告されている。我が国は受動喫煙防止に対して積極的な取り組みを推進すべきであり、動脈硬化性血管疾患をあつかう日本血管外科学会会員は、広く社会に対して禁煙の活動を推進してゆく必要がある。

日本血管外科学会は以下の取り組みを通じて禁煙活動を推進する

1. 本学会会員は、非喫煙者であることを目指し、患者並びに同僚の禁煙を支援し、病院における禁煙を推進する。
2. 本学会会員は、喫煙が人体の及ぼす悪影響と、禁煙によってその影響が防止できることについての正しい知識を社会に普及させる。
3. 本学会会員は、患者の喫煙習慣が動脈硬化性血管病の予後を悪化させることを認識し、患者の禁煙を支援する。
4. 本学会会員は、職場における受動喫煙による健康被害を予防し、同僚医療従事者の健康増進につとめる。
5. 本学会は、関連する学術総会などすべての会議において会場内施設の完全禁煙を推進する。
6. 本学会は、喫煙の動脈硬化性心血管病、糖・脂質代謝異常、高血圧などの生活習慣病への影響について科学的解明を推進する。